

木村泰司のフランス美術史

講師 西洋美術史家 木村泰司

芸術の国として圧倒的な地位を誇る国フランス。

1648年、パリの王立絵画彫刻アカデミーが創立されて以来、フランス絵画は独自の美意識と造形美を発展させていきました。しかし、革命後の19世紀のフランスは、政治同様に美術界も激動の世紀となったのです。この講座では、フランス史をともにフランス絵画の変遷を学びます。



©高木昭仁

◆日時 第1土曜日 13:30~15:00

◆受講料 会員22,704円(税込)/教材費660円(税込)/6ヵ月6回分 (入会金5,000円+税/70歳以上は無料)

今期カリキュラム(2020年4月~2020年9月)

「19世紀フランス美術史」

4/25 新古典主義とロマン主義 (第4週開催)

5/30 バルビゾン派と近代絵画 (第5週開催)

6/6 印象派1

7/4 印象派2

8/1 印象派からの旅立ち

9/5 後期印象派

※日程は、お手続きの際にお渡しする受講票にて再度ご確認ください。

<講師紹介>木村泰司 (きむらたいじ)

西洋美術史家。1966年生まれ。米国カリフォルニア大学バークレー校で美術史学士号を修めた後、ロンドンサザビーズの美術教養講座にてWORKS OF ART 修了。ロンドンでは、歴史的なアート、インテリア、食器等本物に触れながら学ぶ。『世界のビジネスエリートが身につける教養「西洋美術史」』(ダイヤモンド社)、『名画の読み方 世界のビジネスエリートが身につける教養』(ダイヤモンド社)、『印象派という革命』(ちくま文庫)、『名画は嘘をつく』シリーズ(大和書房)など、著書多数。

お申込み・お問い合わせは下記にて承っております。お気軽にお問合せください。

※お申込みは1期ごとに承ります。途中受講も可能です。

<カリキュラム予定>

2019年7月～9月（3回）

「17世紀フランス美術史」

- 17世紀フランス・バロック絵画
- 17世紀フランス古典主義とニコラ・プッサン
- 17世紀フランス古典主義とクロード・ロラン

2019年10月～2020年3月（6回）

「永遠のヴェルサイユと18世紀ヨーロッパ美術」

- ルイ14世時代：華麗なる宮廷文化の興隆
- ルイ15世時代：ロココの世界
- ルイ16世時代：ブルボン朝の黄昏
- 18世紀フランス美術：ロココ絵画1
- 18世紀フランス美術：ロココ絵画2
- 18世紀ヨーロッパ美術：イタリアとスペイン（3/7休講のため4/4に開催）

2020年4月～9月（6回）

「19世紀フランス美術史」

- 新古典主義とロマン主義
- バルビゾン派と近代絵画
- 印象派1
- 印象派2
- 印象派からの旅立ち
- 後期印象派